

「のぞみ23号」車両故障 に関する申し入れ

J R 東海労の調査によると、8月14日、「のぞみ23号（J R 東海所属 X編成）」が山陽新幹線の小倉～博多間で車両故障が発生し、運転台モニターに「駆動系異常」のポップアップ表示があったことが判明している。

平成29年1月25日に「のぞみ31号」では、山陽新幹線の小倉～博多間で部品落下により緊急停止した事故も発生しており、今回の故障表示も新幹線の安全について極めて重大な事象にも関わらず、現場社員に何の説明もない。

今回の故障表示はJ R 西日本管内で起きた事象であるが、車両はJ R 東海所属であり、J R 東海でも故障の原因究明や明確な対策を構築すべきである。

従って、下記の通り申し入れるので、速やかに団体交渉を開催すること。

申し入れと会社回答

1. 今回の故障の詳細について時系列をもって明らかにすること。

平成30年8月14日（火）、15：04頃、のぞみ23号（N700系 X73編成）運転士より小倉～博多間走行中、モニタに6号車駆動系異常ポップアップ表示を認めたため、1054 k mに停止した旨、指令に報告があった。15：29頃、乗務員による床下点検及び小移動による車輪の回転確認を行い、異常が認められなかったため、15：56頃、30km/h 以下にて運転を再開した。当該編成は博多駅到着後、検修係員による床下点検を実施したが、異常は認められなかった。

この関係で、当該編成は博多駅に83分遅着した。

2. 故障表示した車両の編成号と号車部位を明らかにすること。

X73編成 6号車 NO. 1台車である。

3. 今回の故障の原因と処置について明らかにすること。

今回の駆動系異常ポップアップ表示については、主電動機の回転速度が正常に検知できなかったことが原因だと推定される。処置については当該編成の6号車NO. 1台車取替及びブレーキ出力制御装置取替を実施しています。

以 上